



アブラムシもコナガも30日間抑えられた。
防除回数も削減できて助かりますよ。

長野県小諸市 山浦 利光さん(50歳)

高校卒業後、神奈川県で化学メーカーで30歳まで会社員生活を送り、その後、家業を継いで就農。現在はブロッコリーを4haのほか、レタス、はくさい、キャベツを合計2haにわたり作付。



自ら調べ、納得した薬剤だけを使いたい

長野県小諸市および周辺地域は、県内随一のシェアを誇るブロッコリーの産地。氷詰めによる低温管理をいち早く取り入れ、6月上旬から11月下旬にかけて、常に新鮮なブロッコリーが出荷できる体制を整えています。そんな小諸市のなかでも、指折りの作付面積を誇る山浦さん。品質と収量の両立を図るため、害虫防除にも妥協を許しません。

「基本的にはJAの防除暦に沿った薬剤を使用しているのですが、その**薬剤の特性やリスクなどを自分で調べ、納得してから使用する**ようにしています」。ジュリポフロアフル(以下、ジュリポ)にいち早く注目された理由も、研究熱心な山浦さんらしい視点によるものでした。

適用範囲の広さと残効性の長さを実感

この地域のブロッコリー栽培で問題になる害虫は、アブラムシ類、コナガ、ハスモンヨトウ、アオムシなど多種多様。山浦さんがジュリポに最初に注目したのは、適用害虫の幅広さでした。「有効成分を調べたところ、ジュリポにはアブラムシ類に効くチアマトキサムと、コナガ、ハスモンヨトウ、アオムシに効くクロラントラニリプロールが混合されていることを知りました。**1剤で問題になっている害虫を広くカバーできるので、防除の手間も省ける**と思いました」。

144穴タイプのセルトレイを使用する山浦さんは、今年の6月に合計30株へジュリポ200倍液をジョウロで苗シャワー処理。その際、JA佐久浅間の営農技術員である土屋さんより「定植後、24日間は追加防除をしないでほしい」といわれたところ「24日間どころか、**30日間は追加防除なしで(前述の)害虫を抑えられました。長い残効性のおかげで、防除回数も1~2回は削減できましたよ**」。ジュリポに太鼓判を押された山浦さんは、「**まずはジュリポで害虫を抑えて、仕上げにアフーム乳剤**。来年もこの体系でいきたい」と締めくくってくださいました。



syngenta®

シンジェンタ ジャパン株式会社

〒104-6021 東京都中央区晴海1-8-10 オフィスタワーX 21階
<http://www.syngenta.co.jp>



農業をご使用の際は、ご購入先、または当社ウェブサイトなどで最新の登録内容をご確認ください。

®はシンジェンタ社の登録商標 TMはシンジェンタ社の商標

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●薬剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は農場などに放置せず適切に処理してください。

※2011年11月現在の情報です。